

CAPE図面インポートガイド

～CADWe'll CAPEでの見た目とTfasビューアでの見た目を一致させる手順～

●CAPEの[環境設定]ダイアログで設定されている線幅、色を確認します。

■線幅の標準設定値

| 番号 | 線幅(mm) |
|-----|--------|
| 2: | 0.1 |
| 3: | 0.2 |
| 4: | 0.3 |
| 5: | 0.4 |
| 6: | 0.5 |
| 7: | 0.6 |
| 8: | 0.7 |
| 9: | 0.8 |
| 10: | 0.9 |
| 11: | 1 |
| 12: | 1.5 |
| 13: | 2 |
| 14: | 3 |
| 15: | 5 |
| 16: | 7 |

CAPEの[環境設定]ダイアログ

色をクリックすると、[色の設定]ダイアログが表示されます。

■色の標準設定値

| 番号 | 色(RGB値) |
|-----|----------------|
| 1: | RGB(0.0,0.0) |
| 2: | RGB(0.255,0) |
| 3: | RGB(255,0.0) |
| 4: | RGB(255,255,0) |
| 5: | RGB(0.0,128) |
| 6: | RGB(0.0,255) |
| 7: | RGB(0,128,0) |
| 8: | RGB(128,0,0) |
| 9: | RGB(128,128,0) |
| 10: | RGB(0,128,128) |
| 11: | RGB(128,0,128) |

”標準”のままであれば、左表のようになります。

[色の設定]ダイアログ

RGB値が表示されます。1～11の全てのRGB値を確認します。

●Tfasビューアの[図面変換テーブル]ダイアログで、CAPEと同じ線幅、色を設定します。

■線幅

| 変換元データ | 変換先データ |
|--------|----------|
| 1: | 0.00(通常) |
| 2: | 0.10mm |
| 3: | 0.20mm |
| 4: | 0.30mm |
| 5: | 0.40mm |
| 6: | 0.50mm |
| 7: | 0.60mm |
| 8: | 0.70mm |
| 9: | 0.80mm |
| 10: | 0.90mm |
| 11: | 1.00mm |
| 12: | 1.50mm |
| 13: | 2.00mm |
| 14: | 3.00mm |
| 15: | 5.00mm |
| 16: | 7.00mm |

そのまま変換先データに設定します。

CAPEの設定が”標準”のままであれば、デフォルトで左記変換となります。
※変換テーブルに追加する必要はありません。

変換元データ:CAPEの線幅番号
変換先データ:Tfasビューアの線幅

Tfasビューアの[図面変換テーブル]ダイアログ(線幅)

線幅をダブルクリックして、CAPEと同じ線幅を設定します。

■色

| 変換元データ | 変換先データ |
|--------|---------------------|
| 1: | 白(反転) RGB(0,0,0) |
| 2: | 緑 RGB(0,255,0) |
| 3: | 赤 RGB(255,0,0) |
| 4: | 黄色 RGB(255,255,0) |
| 5: | 色174 RGB(0,0,127) |
| 6: | 青 RGB(0,0,255) |
| 7: | 色94 RGB(0,127,0) |
| 8: | 色14 RGB(127,0,0) |
| 9: | 色54 RGB(127,127,0) |
| 10: | 色134 RGB(0,127,127) |
| 11: | 色214 RGB(127,0,127) |

次頁の『色対応表』から、RGB値の近いTfasビューアの色を探し、それを変換先データに設定します。

CAPEの設定が”標準”のままであれば、デフォルトで左記変換となります。
※変換テーブルに追加する必要はありません。

変換元データ:CAPEの色番号
変換先データ:Tfasビューアの色
※RGBで指定することもできます。

Tfasビューアの[図面変換テーブル]ダイアログ(色)

色をダブルクリックして[色の設定]ダイアログを表示し、Tfasビューア上でCAPEと同じ発色のものを設定します。

線種

線種は、次頁の『線種対応表』の番号に変換します。
CAPEのユーザー線種 100～250番は、同一の線種番号が存在していればその番号に、なければ”実線”に変換します。

ヒント

CAPEのユーザー線種 100～250番をTfasビューアに登録するには、CAPEの”CapeLine.USR”をTfasビューアにコピーします。

”CapeLine.USR”の保存場所とコピー先のフォルダは、下記の通りです。

| | |
|-------------------|--|
| CADWe'll CAPE III | ”<<CommonAppData>>/Daitec/Cape/216/Base/CapeLine/CapeLine.USR” |
| CADWe'll CAPE2007 | ”<<CommonAppData>>/Daitec/Cape/215/Base/CapeLine/CapeLine.USR” |
| CADWe'll CAPE2004 | ”<<CAPE2004がインストールされているフォルダ>>/System/Master/CapeLine.USR” |
| Tfasビューア | ”<<CommonAppData>>/Daitec/TfasViewer/Base/CapeLine/” |

※ <<CommonAppData>>
Windows 10, Windows 8, 8.1 C:/ProgramData/

※”CapeLine.USR”をコピー後に、Tfasビューアを再起動します。

ヒント

図面変換テーブル操作手順

TfasビューアでCAPE図面を展開する場合、図面変換テーブルを利用して変換内容を設定しています。あらかじめご用意している標準変換テーブルは、CAPEのメニューバー[設定]-[環境設定]-[色・線]タブの初期設定に合わせて設定されています。そのためCAPEの環境設定を変更している場合は[図面変換テーブル]を新規に作成し、CAPE図面入力時にご利用ください。ここでは標準変換テーブルを元として、CAPE図面を読み込む際の色の設定を変更して図面変換テーブルを作成します。

- メニューバー[ツール]-[図面変換テーブルメンテナンス]をクリックします。
- 表示される[図面変換テーブルメンテナンス]ダイアログの[対象]を「CAPE(*.cpt)」、[テーブル名]を「CapeEppup.CPT」に設定して<<テーブル修正>>ボタンをクリックします。
- [図面変換テーブル]ダイアログが表示されるので、<<新規作成>>ボタンをクリックします。
- 表示される[新規変換テーブル作成]ダイアログで、[テーブルファイル名]と[テーブルタイトル名]を入力して<<OK>>ボタンをクリックします。
- [図面変換テーブル]ダイアログに戻り、手順4で設定した[テーブルファイル名]と[テーブルタイトル名]が表示されていることを確認します。
- [項目名]で[色(読み込み)]を選択します。
[項目名]の下に表示される[変換元データ]がCAPEでの色番号を表し、[変換先データ]にTfasビューアの色が表示されます。初期設定ではCAPEの環境設定で1番に設定されている色は、Tfasビューアでは白に変換されます。
- [変換元データ]の項目を選択して<<修正>>ボタンをクリック、または、項目をダブルクリックすると、色番号を修正することができます。同様に[変換先データ]の項目を選択して<<修正>>ボタンをクリック、または、項目をダブルクリックすると、変換先の色を修正することができます。
- <<追加>>ボタンで変換データを追加し、<<削除>>ボタンでデータを削除します。
- すべての編集が終了したら、[図面変換テーブル]ダイアログの<<OK>>ボタンをクリックします。編集内容が保存された図面変換テーブルが出来上がります。上記で設定は終了です。CAPE図面を展開するときに表示される[CAPEインポート(読み込み)]ダイアログの[テーブル名]で、作成したテーブルファイル名を選択します。

■色対応表

Table mapping colors from CAPE to Tfasビューア. It lists 255 color codes with their corresponding RGB values for both systems. Includes a legend for special colors like red, yellow, green, cyan, blue, magenta, white, and gray.

■線種対応表

Table mapping line styles from CAPE to Tfasビューア. It lists 50 line styles with their corresponding CAPE numbers and Tfasビューア names (e.g., 実線, 破線, 点線).